

Corporate Data

会社概要 (2023年8月31日現在)

商号 株式会社竹内製作所
(英文社名) TAKEUCHI MFG. CO., LTD.
本社 〒389-0605
長野県埴科郡坂城町上平205番地
設立年月日 1963年8月21日
資本金 3,632百万円
事業内容 建設機械の開発、製造及び販売
従業員数 1,173名 (連結)

● 役員の状況

代表取締役会長	竹内 明雄
代表取締役社長	竹内 敏也
取締役	渡辺 孝彦
取締役	Clay Eubanks
取締役	小林 修
取締役	横山 浩
社外取締役 (常勤監査等委員)	草間 稔
社外取締役 (監査等委員)	小林 明彦
社外取締役 (監査等委員)	岩渕 道男
社外取締役 (監査等委員)	宮田 裕子

● 拠点情報

国内	本社工場 長野県埴科郡 青木工場 長野県小県郡青木村 戸倉工場 長野県千曲市 東京営業所 東京都港区
海外	米国 TAKEUCHI MFG. (U.S.), LTD. 英国 TAKEUCHI MFG. (U.K.) LTD. フランス TAKEUCHI FRANCE S.A.S. 中国 竹内工程機械(青島)有限公司 ドイツ 欧州駐在員事務所 オランダ 欧州パーツセンター

● ホームページ
<https://www.takeuchi-mfg.co.jp/>



Stock Information

株式の状況 (2023年8月31日現在)

発行可能株式総数 138,000,000株 単元株式数 100株
発行済株式の総数 48,999,000株 株主数 9,649名
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	5,930	12.42
株式会社テイク	5,159	10.80
株式会社日本カストディ銀行	3,306	6.92
竹内 敏也	2,655	5.56
JP MORGAN CHASE BANK 385632	2,172	4.54
東京中小企業投資育成株式会社	1,803	3.77
公益財団法人TAKEUCHI育英奨学会	1,503	3.14
竹内 好敏	1,500	3.14
株式会社八十二銀行	1,440	3.01
岩崎 泰次	605	1.26

※持株比率は、自己株式(1,253,995株)を控除して計算しております。

株式分布状況 (所有者別)



株主メモ	
事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会 基準日	毎年5月 毎年2月末日 その他必要あるときは、あらかじめ公告いたします。
配当金受領株主確定日 公告方法	毎年2月末日 (中間配当を実施するときは8月31日) 電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。 https://www.takeuchi-mfg.co.jp/ ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告ができないときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関 (同連絡先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
(同郵送先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

- (ご注意)
- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



古紙配合率70%再生紙を使用しています



世界初から世界の TAKEUCHIへ

From World First to World Leader



株式会社

竹内製作所



機種名 TB320



証券コード 6432

第62期 中間報告書

[2023.3.1 - 2023.8.31]



おかげさまで創業60周年を 迎えることができました

代表取締役社長 竹内 敏也

当上期の事業環境について教えてください。

当上期（2023年3月1日から2023年8月31日まで）の世界経済は、ウクライナ情勢の長期化や世界的なインフレ、各国の政策金利の引き上げ及び金融不安等の影響により、先行き不透明な状況が続いているものの、米国では良好な雇用情勢と賃金上昇により、個人消費が堅調に推移しました。欧州では足元の景気概況は軟調ですが、インフレ率は今後緩やかに低下すると見込まれ、実質所得の改善と個人消費の回復が期待されるなど、持ち直しの兆しがみられました。

事業環境について、当社グループの主力市場の一つである米国では、住宅市場において住宅ローン金利と住宅価格の高止まり等により、住宅着工件数は調整局面が継続していますが、住宅に対する潜在需要は根強く、また、生活インフラ工事や建設投資などの非住宅関連の建設工事が旺盛で、建設機械の需要は好調に推移しました。そして、もう一つの主力市場である欧州についても、住宅ローン金利の上昇とエネルギー

価格をはじめとした生活費の高騰が住宅需要を押し下げているものの、生活インフラ工事や建設投資などの非住宅関連の建設工事が堅調で、建設機械の需要は好調に推移しました。

当上期の業績についてはいかがでしたでしょうか。

このような環境のもと、当社グループの販売状況は欧米ともに好調に推移しており、主要製品であるミニショベル、油圧ショベル及びクローラーローダーの販売台数は、いずれも前年同期を上回りました。また、2023年3月にはミニショベル「TB350R」及びホイール式油圧ショベル「TB395W」を市場投入しました。これら新製品を加えた豊富な製品ラインナップで、市場シェアの拡大を図っています。

これらの結果、当上期の売上高は1,051億7千6百万円（前年同期比22.3%増）となりました。利益面につきましては、原材料価格の高騰や2022年9月に稼働開始した米国工場の減価償却費や労務費等の減益要因はあったものの、販売台数の増加、製品価格の値上げ、運搬費の減少、及び円安

影響等により、営業利益は169億6千9百万円（同81.9%増）となり、経常利益は、170億7千2百万円（同65.1%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、税金費用を44億2百万円計上したことにより、126億7千万円（同65.3%増）となりました。

第三次中期経営計画の進捗について教えてください。

当社グループは第三次中期経営計画（2023年2月期から2025年2月期）において、生産能力の増強に取り組んでいます。2022年9月からセミノックダウン方式によりクローラーローダーの生産を開始した米国サウスカロライナ州の工場に続き、2023年9月には長野県小県郡青木村の青木工場におきまして、4トンから9トンのミドルクラスのショベル生産を順次開始しました。米国工場、青木工場のフル稼働は2025年2月期を見込んでおり、既存の本社工場と合わせた生産能力は概ね1.5倍となる見込みです。

本計画で掲げる「パワーアップ、スピードアップ、スケールアップで売上高1,000億円アップにチャレンジする」としたスローガンの実現にむけて、着実に各種施策を実施してまいります。

2024年2月期の通期の見通しについてお聞かせください。

上期につきましては、想定を上回る好調な販売台数に加え、為替レートが前提より円安で推移したことも追い風となり、上期の連結業績は大幅な増収増益となりました。

下期におきましても、製品需要はこれまでと変わらぬ力強さを維持すると見込んでいます。また、これまで当社グループは、世界的な電子部品不足の対策として、電子部品が

未装着の仕掛品を先行出荷し、欧米現地で電子部品を後付けし販売してまいりました。しかし、足元での電子部品の入荷状況が大きく改善しているため、長らく続いた先行出荷は当第3四半期で終了する目処が立ちました。これにより、2024年2月末までに当該仕掛品の全てが完成品となり、お客様に販売できる見込みとなったため、下期の販売台数は想定を上回る見込みとなりました。

この状況を踏まえたうえでの2024年2月期の通期の見通しは、売上高2,050億円（前期比14.5%増）、営業利益331億円（同56.0%増）、経常利益332億円（同55.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益242億円（同51.4%増）と見込み、2023年4月に公表した業績予想を上方修正しました。1株当たり当期純利益につきましては507.68円と見込み、営業利益と1株当たり当期純利益については、第三次中期経営計画の数値目標を大幅に上回り、前倒しで達成すると予想しています。

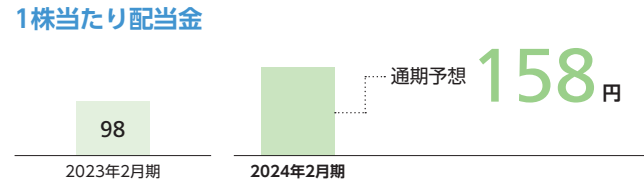
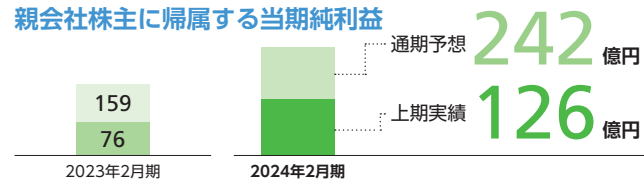
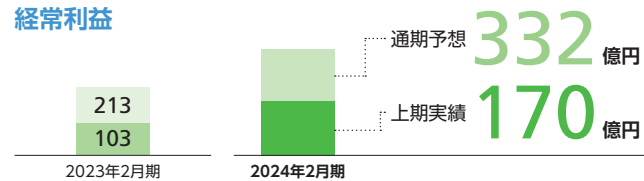
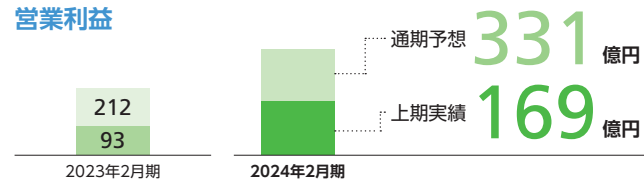
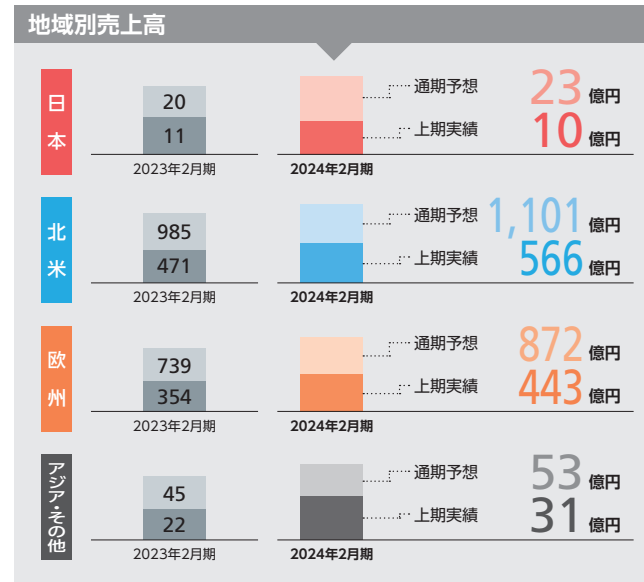
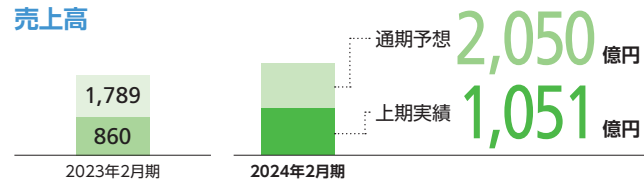
最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

おかげさまをもちまして、当社は2023年8月21日に創業60周年を迎えました。1963年の創業以来、建設機械市場において「世界初のミニショベル」と「世界初のクローラーローダー」の開発によって新たな市場を切り開いてまいりました。常に世界のニーズと向き合い、それに応えることで成長を遂げてきました。パワフルかつ耐久性、操作性、快適性に優れた当社製品は、その独自の付加価値の提供により、高い市場評価をいただき、これが当社グループの強みとなっています。これからもこの強みを活かし、さらなる成長を遂げてまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Consolidated Financial Highlight

連結財務ハイライト



配当金の予想について

当社は、株主の皆様に対する利益配分を経営の重要課題の一つとして位置付けております。利益配分につきましては、経営体質の強化並びに今後の事業展開に備えるために必要な内部留保を確保しつつ、連結配当性向30%を目安として、安定した配当の継続に努めることを基本方針としております。

この基本方針に基づき、2024年2月期の利益水準及び財政状態を総合的に勘案した結果、2024年2月期の期末配当予想につきましては、期初予想（2023年4月公表）の1株当たり115円から43円増配の、1株当たり158円（創業60周年記念配当5円を含む）に修正いたしました。なお、前期実績から60円の増配となります。

2024年2月期上期の為替レートと通期予想の為替レートについて

当上期の実勢為替レート（期中平均）は、1米ドル＝138.45円、1英ポンド＝172.16円、1ユーロ＝149.84円、1人民元＝19.55円であり、下期の前提為替レートは、1米ドル＝137円、1英ポンド＝174円、1ユーロ＝149円、1人民元＝18.70円としております。

Topics

トピックス

2023年9月 青木工場の稼働開始

中期経営計画の重点施策「生産能力の増強」で、安定拡大する需要に対応

欧米で拡大する需要に対応するため、今年9月より稼働を開始した青木工場。立ち上げに携わったプロジェクトチームの貢献により、ほぼ予定通り稼働を開始することができました。同工場では、4トンから9トンのミドルクラスのショベル生産を順次開始しており、フル稼働にいたれば既存の本社工場と合わせてショベルの生産能力は150%となる見込みです。

省力化・自動化・IT化を取り入れ、効率的な工場を実現

青木工場の特徴は、自動化やITを取り入れた生産効率の高さです。自動搬送ロボットの導入で部品の供給動線の自由度があがり、効率的な工場内レイアウトが可能に。ITを活用し、荷受を予約制にしたことで、部品の受け入れがスムーズになりました。

また、消費電力は屋上に設置した太陽光パネルでの発電とCO₂フリー電力を使用し、地球環境にやさしい製品づくりにも取り組んでおります。



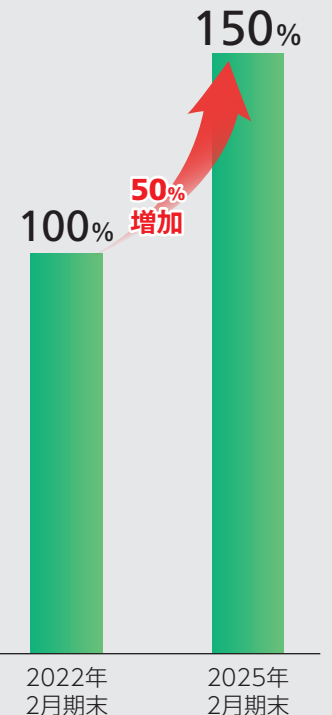
青木工場 正面



青木工場 全景

- 投資額 約110億円
- 敷地面積 50,000㎡
- 建築面積 27,800㎡
- 延床面積 31,600㎡

ショベルの生産能力



Topics トピックス 新製品紹介

当社は、お客様のニーズに応えた製品を開発・生産し、いち早くお届けしていくことで、シェア拡大に邁進してまいります。

▶ 2023年10月から、 2トンのミニショベル 『TB320』を販売開始

TB320は抜群の安定性とパワフルな性能で、あらゆる現場の多様なニーズに対応するミニショベルです。狭い現場でも小回りが利くコンパクトなボディに加え、用途に応じた多種多様なアタッチメントの選択が可能になり、現場の効率性・作業性を高めます。さらに、既存モデルでは足元で行っていたアタッチメント操作を手元グリップにすることで、操作性を格段に向上させました。



TB320

POINT

- ① Retractable Undercarriageを採用、クローラー幅を伸縮させることで、狭い場所では縮めて走行し、掘削時には伸ばすことで安定した作業が可能
- ② 多種多様なアタッチメントの選択が可能
- ③ アタッチメントの操作を手元グリップで行えるため、より繊細な操作が可能に
- ④ 「Takeuchi Fleet Management System」を搭載し、製品の稼働情報、メンテナンス履歴などを遠隔監視し、万一の故障や盗難時にも即応可 ※オプション



① Retractable Undercarriage

③ 手元グリップ

Feature 特集

竹内製作所は1963年の創業から 今年で60周年を迎えました。

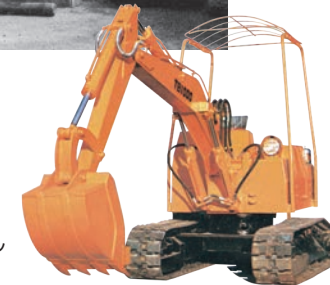
世界初から世界の TAKEUCHI へ

1971年、当時の土木作業はスコップとつるはしで行われており、作業員には大変な重労働でした。機械化できないかというお客様の声により開発された世界初の360度旋廻ミニショベル『TB1000』。狭い場所で作業ができる小回りの利くミニショベルは評判がよく、急速に普及していきました。

お客様の声を製品開発へ活かし、いち早く製品化する小回りの利いた開発体制は創業当時から現在まで変わらず受け継がれております。販売後も細かな改良と仕様追加を短周期で行うだけでなく、製品の仕様やオプションをきめ細かく設定できる受注生産方式をとることで、世界のニーズにお応えし成長を遂げてきました。



創業当時の本社・工場



世界初のミニショベル
TB1000 (1971年)

世界で活躍するミニショベル・クローラーローダー



不整地の整備



都市整備